

令和7年度 第1回買物公園エリアプラットフォーム会議 会議要旨

【開催日時】

令和7年5月8日（木） 18:30～20:30

【開催場所】

旭川市庁舎1階レストラン

【会員参加者（敬称略）】

赤松 昌輝、荒木 孝文、柏木 公司、草野 常幸、久保 竜弥、ゲンママコト（オブザーバー）、佐藤 祐哉、四戸 秀和、鈴木 伸治、高橋 遼太郎、知本 有里、長尾 英次、中田 崇太、蜂須賀 咲来（Web）、三浦 詩乃、柳 絵里、山田 直人、旭川市

【会議資料】

- ・ 第1回 エリアプラットフォーム会議

【会議内容】

- 1 開会
- 2 議事

① エリアプラットフォームの規約変更について

- 事務局より、資料「第1回 エリアプラットフォーム会議」に基づき、規約変更箇所、エリアプラ新年度体制について説明した。
- 事務局より、今年度の各ゾーンの幹事を紹介し、代表幹事には、会員からの推薦により、長尾 英次 氏が選出された。

② 今年度の取組について

- 事務局より、同資料に基づき、今年の実験の概要について説明を行った。参加者から質問や意見等はなかった。
- 合同会社流動商店（社会実験企画・実装化検討業務の受託業者）より、同資料に基づき、今年の実験の狙い、社会実験以外の取組について説明を行った。参加者から質問や意見等はなかった。

③ 各滞在空間のデザインについて（グループディスカッション）

- 各ゾーンに付加する機能や空間デザインについて議論するため、グループ討議を実施した。
- 各グループから、議論の内容について、次のとおり発表を行った。

《ゾーンⅠ：1条周辺エリア》

- ・ 都会的な空間に緑があることで、幅広い世代の方が滞在する空間になると思う。課題としては、意外と駅から遠いため、駅から目につくような緑のオブジェクトなどのシンボリックな待ち合わせ場所や、人目を気にせず休息できるよう工夫された仕器があると良い。
- ・ 昨年は人工芝がある滞在空間とバスキングエリアが明確に区切られていたため、これらを融合させることや、食品出店者に対する衛生管理をルール化していきたい。
- ・ 買物公園の照明のタペストリーを各ゾーンで連携して一体感を生み出すことや、昨年好評だったスタンプラリーなど、他のゾーンへの回遊のきっかけとなるものを発信していきたい。

《ゾーンⅡ：3条周辺エリア》

- ・ 元々の買物公園にあった、雑多感のある雰囲気を作りたい。エリアの特徴として様々な店舗があるので、幅広い世代をターゲットにできると思う。
- ・ 夜は賑わっている反面、昼は人が少ないため、昼間にもイベントを開催して集客を図りたい。
- ・ 居心地の良い空間と、イベントがやりやすい空間の両立を目指したい。具体的なコンテンツとしては、DJナイト、眼鏡のファッションショー、ラジオ中継などの実施を考えている。

- ・ 昔の買物公園にあったモニュメントや遊具を再現する提案があった。例えば、昔あった花時計を設置することで、昔を知る人が集まり、コミュニケーションの場が生まれるのではないかな。
- ・ イベントがやりやすくなるよう、動かせるステージやおもちゃを設置したい。最終的には未来ビジョンの「懐かしさと新しさが共存するセンターゾーン」に合致するのではないかなと思う。

《ゾーンⅢ：5条周辺エリア》

- ・ 日常的な利用のあり方として、子どもの居場所、遊び場所になるような、長居できる環境を作りたい。また、日陰やくつろげる場所の整備、シラフナップなどのオフィス利用者向けの休憩スペースを作ること、より多くの人が訪れる場にしたい。
- ・ 非日常なお祭り広場の実験として、こども縁日の実施、やぐらの設置のほか、フードテラスや旭川はれて屋台村といった、買物公園の動線に対して直角に広がる空間を活用することで、人が滞留する空間を作りたい。
- ・ 周辺のホテル利用者が多いので、地域の情報を発信するだけでなく、人が集まってコミュニケーションが生まれるような場所を作っていきたい。

《ゾーンⅣ：7条周辺エリア》

- ・ 緑道エリアは文化的なブランディングができてい一方で、開拓の塔の周りには車両通行や点字ブロックの制約があるため、テーブルや人工芝などの配置を工夫する必要がある。
- ・ 日陰については、子どもたちの遊び場所を考えると、メリハリのある配置にしたい。
- ・ 昨年、風でハンモックがひっくり返ってしまったこともあり、風対策が課題である。
- ・ 緑道では、生活ゴミやたばこのポイ捨てが目立つため、ごみ対策を考えていきたい。
- ・ 多くの店舗が早い時間に閉まるため、「三和緑道ショップ」を作って、各店舗の商品を持ち寄り、露天形式で販売してみたい。また、子どもたちが集まるエリアなので、パトカーや消防車などの働く車の体験会を開き、普段触れられない職業への理解を深める機会を作りたい。
- ・ 最も実施したいイベントは盆踊り。昨年は映画祭を2回開催したが、今年はそのうち1回を盆踊りに変更したい。まちなかでは盆踊りイベントがなく、子どもたちや昔から住んでいる方が望んでいる企画でもあるので、道路占用のハードルが下がるこの機会にぜひ実施したい。
- 各グループの発表を踏まえ、アドバイザーの三浦氏、鈴木氏から、次のような意見があった。
- ・ 社会実験が終わった後も取組が続くよう、必要な什器や体制を整えることや、交通の変化についても実験できると良い。また、エリプラ会議以外でもオープンな空間でメンバーが集まれるような場を作ることも検討してほしい。
- ・ 昨年は準備時間が短く、実現できなかったアイデアが多くあったと思う。例えばデザイン都市としての取組や、共通のテーマを設定した各ゾーンでの取組、地域の人や店舗との関わりを深め、新たな参加者を巻き込むための取組などを進めてほしいと思う。

④ 広報・スケジュール等について

- 株式会社ノヴェロ旭川支社（社会実験運営業務の受託業者）より、同資料に基づき、社会実験の広報企画案について説明を行った。参加者からは次のような意見があった。
- ・ 昨年、朝カフェ企画を実施したが、告知が難しく、周辺のホテルにチラシを置いてもらい、来客を促した。今年の社会実験では、近隣のオフィスに勤めている人に朝カフェを利用してもらい、日常の行動パターンを変えるような仕掛けをしたいと考えており、SNSやメディアを活用しつつ、地域の人に情報を直接伝えるような手法も取り入れたら良いと思う。
- 事務局より、同資料に基づき、年間想定スケジュールについて説明した。

3 閉会

以上